

きらり☆

松橋支援学校 広報誌

第58号

平成30年

2月発行

熊本県立
松橋支援学校

〒869-0543

宇城市松橋町

南豊崎252

TEL 0964-32-0729

給食週間

日本の学校給食は、明治22年、山形県の小学校でお弁当を持ってくることでできない子どもたちのために、食事を提供したことが始まりだと言われています。その後、戦争で中止していた給食が昭和21年12月24日に再開され、その1か月後の1月24日を学校給食記念日とし、この日から1週間が「全国学校給食週間」になりました。本校では1月22日から26日までを校内学校給食週間として取り組みました。

本校は、校内の厨房で調理される「自校給食」で、栄養士の先生が献立を考



え、調理員の方々が心をこめた料理を作り、温かく栄養バランスのよい給食が提供されています。1月の献立は、給食が始まった頃の



熊本の郷土料理
(高菜めし・だご汁)

再現メニューや熊本の郷土料理、平昌オリンピックにちなんだ韓国料理など、趣向を凝らしたもので、献立から、給食の始まりや郷土、世界の食について学ぶことができました。また、食堂では小学部による「給食のひみつ」、中学部による「好きな献立」、高等部一般学級による「給食クイズ」、高等部重複学級による「ランチミュージック」の発表などが行われ、楽しみながら給食に関する理解を深めたり、関心を高めたりすることができました。最終日には、栄養士の先生と調理員の方々に専門学科の生徒が感謝の言葉を述べ、代表者が花束を手渡し

給食について知ろう

小学部では給食週間に合わせて知る学習を行いました。1月17日と18日には、栄養士の先生に給食ができるまでの話や、調理員の方々の思いを話していただきました。



また、給食の調理で使っているしゃもじやお玉などを見せてもらい、いつも家庭での調理に使われている道具との大きさの違いに驚いていました。また、学級ごとに給食の学習を行いました。



1年生ではドーナツ作りを行い、普段お世話になっている先生たちにプレゼントしました。児童はこれらの学習を通して、給食がどのようなか知ることができました。

ボッチャ用ランプの贈呈式



小川工業高校に製作していただいたボッチャ競技で使用するランプ（勾配具）が完成し、1月30日に本校体育館で贈呈式を行いました。本校児童生徒がボッチャに取り組んでいることを知った小川工業高校の先生方と生徒さんが、授業の一環として木製のランプ製作に取り組まれました。当日は製作に関わった小川工業高校3年生の8人も来校し、完成したばかりの手作りランプを使用して、小学部、中学部、高等部の児童生徒と交流戦を行い、楽しい時間を過ごすことができました。

郷土料理で交流

高等部普通科一般学級では、人の関わりや社会に対する視野を広げることを目的として、「交流及び共同学習」を行っています。1月26日には、宇城市松橋町婦人会の方々にお越しいただき、郷土料理を作りました。「まぜご飯」「レンコンのハンバーグ」「のっぺい汁」「いきなり団子」の4品を作りました。婦人会の皆さんに協力いただきながら、無事完成することができました。その後は全員で会食を行い、楽しく歓談しながら自らが作った郷土料理を堪能しました。



卒業に向けて

高等部専門学科3年生は、昨年11月から、卒業後の生活を見据えた「自立支援プログラム」を授業の中で実施しています。調理活動、掃除、選挙、金銭管理、身だしなみ講座など、卒業後の生活場面で必要とされる知識やマナーを実際に経験しながら学んでいきます。1月は調理活動で、「豚汁」と「ぜんざい」を作りました。2月は外部講師を学校にお招きしての身だしなみ講座、校外でのテーブルマナーの学習を予定しています。



城南地区高校駅伝

2月3日に「第62回熊本県高等学校城南地区駅伝大会」（男子5区間 20・3km）が球磨郡多良木町の多良木高校を



発着とするコースで行われ、高等部専門学科の陸上同好会のメンバーが出場しました。沿道からの声援を受けながら、最後までたすきをつなぎ、1時間24分30秒でゴールしました。

氷川分教室だより

「チャレンジ 日本一の石段」

1月26日に、氷川分教室の生徒全員で、美里町の釈迦院御坂遊歩道へ行き、日本一の石段登りに挑戦しました。5つのグループに分かれてスタートし、1グループは3333段踏破を、2グループは500段から2500段を目指しました。1グループの生徒たちは、お互いに声を掛け合い、励まし合いながら全員無事に雪の残る頂上にたどり着くことができました。2グループの生徒たちの中にも目標を遙かに超え、頂上まで登ることができた生徒もいました。きつい石段登りでしたが、生徒たちは目標をクリアし、達成感に満ちた様子でした。

